

カラーデザイン研究会

Special Interest Group on Color Design

https://color-science.jp/color_design/labnews/

主査 酒井 英樹 (大阪公立大学)

e-mail: csaj.colordesign@gmail.com

実社会での色彩の具体的利用法の提案, 個々人の色彩感覚技能の向上を目指します。

◆研究内容や研究会の構成

カラーデザイン研究会は, 色彩の科学技術の開発研究と表裏一体をなすものとして, 実社会での色彩の具体的利用法の提案, さらに, 個々人の色彩感覚技能の向上を目指すことを目的として活動をしています。デザインのための色彩学を主題として, 表色系や色彩心理などのデザインの根幹に関わる事柄の勉強会や講演会, 実社会での色の使い方, 使われ方を体験する見学会などを企画して参ります。“色”に関わる様々な分野, 立場の方々のご参加をお待ちしています。

主査: 酒井英樹 (2021/7 より)

顧問: 苅阪直行

監査: 山下明美

幹事: 能口祥子, 高田瑠美子

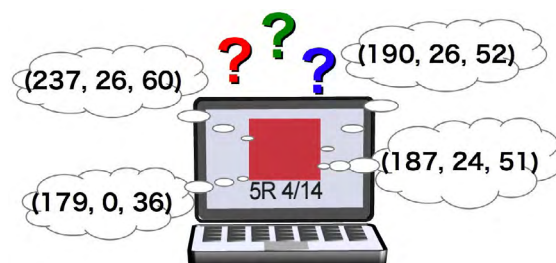
会員総数: 92 名 (2022/3/31 時点)

◆2021 年度の活動報告

2022 年 3 月 4 日に, 白梅学園大学子ども学部発達臨床学科教授の松田佳尚氏を講師に迎えて, カラーデザイン研究会 2021 年度講演会「不気味の谷 (半分お母さん) と顔認知の発達 (乳児期の人見知り)」をオンライン開催しました。

松田氏は, 脳科学, 発達神経学, 発達心理学を基礎として「半分お母さん」など赤ちゃん学で先駆的な研究を行なっておられます。

講演前半では, ロボット工学者の森政弘氏が 1970 年に提唱した不気味の谷現象という仮説に関する最新的话题を, 後半では, 私たちの感情や感性が, 乳幼児期にどのように発達するのか, さらに, 言葉を話す前の乳幼児の感情を視線反応計測, つまり, 赤ちゃんの視線の動きからどのような観察できるのか, について, お話いただきました。その後のディスカッションでは, エクマンやラッセルの表情理論や顔のモーフィング技術などについて意見交換を行いました。



5R 4/14 の正しい RGB 値は一体???

(酒井英樹, 「色彩の矛盾をひも解く」第5回, 日本色彩学会誌 37(4) (2013) 394 より転記)

◆2022 年度の活動計画

マンセル表色系の画面表示やプリンタ印刷時の色合わせ手法や, カラーデザインに関する用語についての勉強会を企画しています。

マンセル表色系については, マンセル色票の画面表示の RGB への変換, プリンタ印刷時の CMYK へ変換手法についてのノウハウの議論を行う予定です。

カラーデザインに関する用語については, 2022 年 3 月に改定された JIS Z 8105「色に関する用語」において, カラーデザインに関する用語が新たに収録されたことに伴い, 日頃, どのような用語を, どのような意味で使っているのかについて, 調査を行う予定です。また, 今年度は, 秋に開催される研究会大会への参加を予定しています。詳細決まり次第, 会員メール, 学会メール等でお知らせしますので, ふるってご参加ください。この他, カラーデザイン研究会では, 会員の皆様からの研究テーマ提案を随時募集しています。お気軽にご連絡ください。